

■ 令和5年度 第2回新潟市スポーツ推進審議会

日時：令和6年3月27日（水）10時00分～

会場：白山会館 1階 芙蓉

（司 会）

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、令和5年度第2回新潟市スポーツ推進審議会を開催いたします。司会を務めますスポーツ振興課の橋本と申します。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に、資料の確認をさせていただきます。本日、机上にご用意した資料は、次第、委員名簿、席次表、新潟市スポーツ推進審議会条例、資料1-1「令和6年度スポーツ振興課 当初事業予算一覧」、資料1-2「令和6年度スポーツ振興課 当初事業予算説明書」、資料2-1「重点1 新潟・佐渡マラソンシナジーズの概要」、新潟シティマラソンのパンフレットとチラシになります。資料2-2「重点2 幼児の運動遊び促進事業の概要」、資料3「能登半島地震による被害状況一覧」、資料4「スポーツ施設の未来構想会議」の資料、以上となります。過不足ございませんでしょうか。

続きまして、定足数の確認となります。本日は、委員18名のうち12名が出席されています。新潟市スポーツ推進審議会条例第7条第2項の規定により、過半数の出席を得ていますので、本会議は成立いたしますことをご報告します。

次に、会議の公開及び議事録の取り扱いについてご説明いたします。本市の指針によりまして、会議は原則として公開することとしており、この審議会につきましても傍聴が可能となっています。そして、会議の内容につきまして、後日会議録を作成し、ホームページなどで公開させていただきます。会議概要等作成のため録音させていただきますことをご承知ください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、高田文化スポーツ部長があいさつを申し上げます。

（文化スポーツ部長）

皆様、おはようございます。文化スポーツ部長の高田でございます。開会にあたりまして、一言ごあいさつさせていただければと思います。

委員の皆様におかれましては、年度末のご多用の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。そして、日頃から本市のスポーツ振興に多大なご尽力をいただきまして、ありがたく感謝申し上げますところでございます。

本年は、元旦から能登半島地震が発生し、本市西区を中心に大きな被害を被りました。被害にあわれた皆様に心よりお見舞いを申し上げたいと思っています。

スポーツ施設においても、すべての区で 29 の施設が液状化ですとか、施設のひび割れですとか、被害を受けました。具体的な復旧の見込みというのはまだ立っていないという状況でございますけれども、市民の皆様のスポーツ活動の日常を取り戻すべく今、鋭意努力しているところでございます。

さて、あと3営業日ほどで新年度ということでございますが、令和6年度の本市のスポーツ振興施策について、若干触れさせていただければと思います。一つは、本市のスポーツイベント、一大イベントでございます、新潟シティマラソンでございます。令和6年度は40回という節目の大会でございます、それを契機に4月に開催される佐渡のトキマラソンと姉妹マラソンというような位置づけで、両方の大会のマラソンを完走された方にW完走の記念のメダルを贈呈するなど、マラソンの魅力を高めて誘客、観光につなげていきたいと考えています。

また、生涯スポーツ社会の実現ということで、委員の皆様からご意見いただきました、幼児期からの運動遊びの習慣化が大切だよねということでございます。そちらも取り入れさせていただきまして、我々そういった幼児期からの運動習慣を定着させるような、促進させるような取組みを進めてまいりたいと考えています。詳細につきましては、このあと議事の中でご説明させていただきますけれども、皆様からはどうぞ忌憚のないご意見を頂戴して、本市のスポーツ振興に役立たせていただきたいと考えています。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

(司 会)

続きまして、西原会長よりごあいさつをお願いいたします。

(西原会長)

皆さん、おはようございます。年度末のお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今ほど高田部長からもお話がありましたように、正月の能登半島地震によって、やはり新潟市のスポーツ施設もだいぶ被害を受けました。そういう意味では、本日も報告がありますけれども、そういったことについても皆さんからご意見をいただきたいなと思っています。

それから、新しい年度に向けてのさまざまな事業についてもお示しいただくということで、よろしく願いいたします。

あとは令和5年度をもって、後ほどお話があると思っておりますけれども、これまでご尽力いただいた委員の皆様の中から、ここで退任されるという方々もいらっしゃいます。本当に長い

間ご尽力いただいて感謝申し上げます。改めて後ほどごあいさついただきますけれども、本当にありがとうございました。これから大所高所から、また新潟市のスポーツについてご意見・ご尽力いただければと思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、1時間半になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。それでは、議事に移りたいと思います。ここからの会議進行については、審議会条例第6条第3項に基づき、西原会長にお願いいたします。

(西原会長)

それでは、早速議事に入りたいと思います。(1)「令和6年度スポーツ振興課当初予算について」、事務局からよろしくお願いいたします。

(事務局)

おはようございます。スポーツ振興課長の寺尾でございます。議題(1)について私から説明させていただきます。

お手元の資料1-1と資料1-2をご用意ください。新潟市スポーツ推進計画第3次「スポ柳都にいがた」プランでは、「生涯スポーツ社会の実現」、「競技力の向上、人材育成の推進」、「スポーツを活かしたまちづくり」の三つの基本方針を柱として施策を推進することとしています。当課が所管する令和6年度当初事業予算について、こちらの柱ごとにまとめた一覧が1枚目の資料1-1、そのうち主立った事業について詳しく記載したものが資料1-2でございます。説明は、基本的に資料1-1を基に行い、主な事業をかいつまんで説明させていただきます。必要に応じて資料1-2を併せてご覧ください。なお、各事業を柱ごとに分類する際、複数の柱にまたがる事業については、メインではないほうを再掲とし、網掛けで表現しています。

まず、資料1-1の一番下の行、黄色で示してあります合計額をご覧ください。令和6年度予算額は3億9,967万7,000円で、令和5年度に対し4,484万6,000円の増となっております。主な増加の理由としては、令和6年度に実施する新潟市陸上競技場の芝生張り替えにかかる費用によるところが大きくなっています。

それでは、上から説明してまいります。一つ目の柱「生涯スポーツ社会の実現」では、子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず誰もが生涯にわたってスポーツ、レクリエーションを通じて健康で豊かな生活を営むことができるよう、スポーツの機会の創出や環境づくりに取り組みます。

まず、「新潟シティマラソン」です。例年、約1万2,000人のランナーを募集しまして、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を臨みながら走る、今年40回目の節

目を迎える本市の一大スポーツイベントです。フルマラソンやファンランのほか、好評いただいている障がいの有無や年齢を問わず参加できる種目、ユニバーサルランを引き続き開催いたします。また、マラソンに関連する新たな取組みとして、「新潟・佐渡マラソンシナジーによる魅力向上事業」を実施し、佐渡トキマラソンとの連携を図ることで、新潟シティマラソンの魅力向上、交流人口のさらなる拡大を目指します。

なお、本事業は、令和6年度の重点事業の一つとしており、後ほど議事の(2)「スポーツ振興課重点事業について」において改めてご説明いたします。

続いて、次の「少年少女スポーツ大会」は、児童の健全育成を目的に小学生を対象とした野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールの4競技のスポーツ大会を開催するものです。

次の「早起き野球大会」は、5月中旬から7月下旬に日本有数の参加チーム数を誇る早起き野球大会を開催し、大会を通じてスポーツの振興と健康増進を図るものです。令和5年度は、参加チーム数日本一の座を熊本市から奪還することができました。令和6年度も引き続き、ワンデー助っ人制度や少数チーム同士のマッチングなどの工夫を凝らし、活気のある大会としてまいります。

一つ飛ばしまして、6番「自転車活用事業」は、9月に岩室から弥彦山を駆け上がる新潟ヒルクライムを実施するほか、弥彦競輪場にてワンマイルタイムトライアルを開催いたします。

7番「氷上スポーツ体験学習」は、児童に氷上スポーツに親しんでもらうため、市内の小学校在校外活動で新潟市アイスアリーナを利用する際の経費を助成するものです。今年度からは保育園・幼稚園にも対象を広げて実施をしています。

8番目の「スポーツ施設管理運営・スポーツ施設の整備」は、当課が所管する陸上競技場や体育館の指定管理料や市内スポーツ施設の補修工事等に備える経費です。令和6年度は、新潟市陸上競技場の後任継続のため、芝生の張り替えを行います。

9番の「『目指そう、支えよう、パラリンピアン』障がい者数推進事業」については、ボッチャやフライングディスク等の競技用具の貸し出しや、競技の体験会を実施することにより、各拠点施設を中心として障がい者スポーツの裾野拡大を目指します。

10番の「子どもスポーツふれあい促進事業」では、小学生を対象としたサッカー教室やプロのサッカー選手及び育成スタッフの中学校クラブチームへの派遣指導を通じて、技術レベルの向上や交流を図ります。

12番の「幼児の運動遊び促進事業」は、生涯にわたる体力・運動能力を向上させ、成人期のスポーツ習慣化につなげるため、保育士への研修や保護者向け体験教室を実施するなど、

幼児期の運動遊びを促進する新規の事業です。本事業も令和6年度重点事業の一つであり、後ほど詳しくご説明いたします。

続いて、二つ目の柱の「競技力の向上、人材育成の推進」では、新潟から世界へはばたく選手を育成し、本市がスポーツ文化の発信地となるよう、競技力の向上や指導者の育成、資質向上に取り組むとともに、障がい者の競技スポーツの普及促進を図ります。

15番の「新潟市スポーツ協会補助金」は、各種大会の実施や指導者の育成、ジュニア層を中心とした選手の育成強化を図る新潟市スポーツ協会に対し、運営費を補助いたします。

19番「障がい者スポーツ大会関連事業費」は、10月に佐賀県で行われる第23回全国障がい者スポーツ大会SAGA2024へ政令市としてチームを派遣するものです。そのほか、大会に向けて出場する選手の選考の場をとということで、県とともに県大会を開催するなど、選手育成・強化を実施いたします。

三つ目の柱「スポーツを活かしたまちづくり」では、地元プロスポーツチームをはじめ、スポーツ団体などとの連携により、スポーツの持つ力をまちの活性化やまちづくりに活用する取組みを推進します。

21番の「スポーツ観戦招待事業」は、サッカーや野球、バスケットボールのプロチームのホームゲーム親子観戦招待を行うものです。令和5年度は9,000人を超える親子を招待いたしました。

23番「国際・全国大会等誘致に向けた合宿受入事業」は、新潟市文化・スポーツコミッションと連携し、ナショナルチームをはじめとしたトップチームの合宿を誘致し、交流人口の拡大やその後の国際・全国大会の誘致開催につなげるものです。

最後になりますが、諸経費です。本審議会の開催経費や新潟県駅伝競走大会、県スポーツ施設協会への負担金、また当課の事務費などです。

以上で、スポーツ振興課、令和6年度当初事業予算の説明を終わります。

(西原会長)

ありがとうございました。

それでは、当初事業予算につきまして、何かご質問・ご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。次の重点事業でも具体的なお話があると思いますが、また何か思いつきましたらお願いいたします。

それでは、議事(2)に進みたいと思います。「令和6年度スポーツ振興課重点事業について」、引き続き事務局からお願いいたします。

(事務局)

続きまして、令和6年度、スポーツ振興課において行う新潟・佐渡マラソンシナジーによ

る魅力向上事業、また幼児の運動遊び促進事業の2事業の重点事業を取り組むこととしておりますので、それぞれの事業について、マラソンについては私から説明させていただきまして、幼児の運動遊び促進事業については担当の金子係長から説明をさせていただきます。

それでは、まず最初に資料2-1「重点1新潟・佐渡マラソンシナジーによる魅力向上事業（佐渡連携誘客）」について、説明をさせていただきます。

こちら、まず目的でございます。本市は、佐渡市とすでに誘客交流連携協定を結んでおりまして、その枠組を活かしながら、秋に開催する本市の新潟シティマラソンと、春に開催する佐渡トキマラソンの両方に連携してエントリーをしていただく機運を強化したいということで、本事業を始めています。

こちらの連携により、来訪者の増加を図るとともに、観光・国際交流部と連携しまして、県外もしくは市外から訪れている方々が市内を周遊したり、佐渡に行かれたりというような交流人口の拡大につなげることを狙っております。

大会の概要については、こちら記載のとおりですが、第40回新潟シティマラソンについては本年10月13日、佐渡トキマラソンにつきましては来月4月20日と21日に行われる予定ですが、フルマラソンについては21日に開催されるということでございます。

取組み内容につきましては、佐渡トキマラソン及び新潟シティマラソンの2大会のフルマラソン完走者に特製W完走メダルを贈呈するという予定にしています。

それから、新潟佐渡カップ2024と題しまして、2大会のフルマラソンの合計タイムで上位入賞された方を表彰、それから賞品を贈呈するという予定にしています。

また、佐渡トキマラソン完走者で、新潟シティマラソンのフルマラソンにエントリーされた方については、スペシャルゼッケン、佐渡マラソンを完走しましたというようなゼッケンをつけて走っていただくということにしています。

それから、セレモニーを相互の大会で佐渡、新潟の関係者から出席をさせていただきまして、セレモニーを行うという予定になっています。

また、そのほかにも沿道で佐渡の特産品と申しますか、芋煮にというものを佐渡マラソンで振る舞っているそうなのですが、そういったものを新潟シティマラソンでも振る舞ってもらえないかと、今こちらについては企画中ですが、そういったところで両市の魅力をアピールしていきたいと考えています。

課題については、やはりコロナで非常に参加数が落ちたというところがありまして、昨年度の38回大会と今年度の39回大会については定員1万2,000人のところ、残念ながら定員まで達しなかったというところがございます、どうしても全国各地でいろいろなマラソン大会が開催されている中、いろいろなマラソンにエントリーされる方が選別と申しますか、選ん

で出走されるという状況が起きておりますので、こういった形で新潟シティマラソン、佐渡トキマラソンの連携という独自の魅力を生み出すことで、選ばれるマラソン大会にしたいというところがございます。

参考までに、こちらのパンフレットに4月10日から新潟シティマラソンの募集を開始させていただきます。こちら重点事業とはまた別になりますが、ポスターといいますかチラシもつけさせていただきましたが、フルマラソン2大会を完走された方には、こういった特典がありますよということで応募を促しています。これは2月15日に公表したのですけれども、佐渡トキマラソンのほうも過去最高のマラソン参加者数を記録しているということで、佐渡トキマラソンについては一定の効果が出ているということですので、4月10日から募集の新潟シティマラソンについても効果が見込めるのではないかなと考えています。

4月10日から受付開始なのですが、22日からは佐渡トキマラソンに完走された方、21日がマラソンの日ですので、完走された方の枠の募集を開始し、1,000名分の枠を用意して募集を開始する予定になっています。佐渡も追加募集を開始したということですので、フルマラソンですが、ご参加予定といいますか興味がある方は、ぜひ参加いただければと思います。

それから、もう一つ、長くなって恐縮なのですが、中ほどに能登半島地震被災地支援ということで、新潟シティマラソンの募集と併せて、能登半島地震の500円の寄附をプラスでエントリー時に寄附をいただいた方に、ニックネームをゼッケンのところに入れさせていただくという取組みを併せて行っています。こういった形で被災地支援に皆さんから気軽にといえますか、ぜひご協力をいただけるような取組みをしておりますので、よろしく願いいたします。長くなりましたが、マラソンの事業の説明については以上でございます。

続きまして、幼児の運動遊びについて、担当の金子係長から説明させていただきます。

(事務局)

それでは、幼児の運動遊び促進事業について説明させていただきます。担当のスポーツ振興課の金子と申します。よろしく申し上げます。

資料2-2をご覧ください。この事業は、事業概要欄に記載のとおり、保護者や保育士に幼児の運動遊びの重要性を知ってもらうための事業です。家庭や保育現場で運動遊びを取り入れてもらうことで、幼児の体力・運動能力を向上させるとともに、成人期のスポーツ習慣化につなげていこうというものです。

具体的には、大きく分けて内容欄に記載のとおり、四つの事業を行います。一つ目が、①保護者向け啓発動画の配信、幼児の運動遊びの紹介動画の配信です。これは、動画を通じて幼児期の運動遊びの重要性を理解してもらうとともに、自宅でできる運動遊びを紹介することで保護者の意識改革、幼児の運動習慣化を促進するものです。作成した動画は、新潟子育て

て応援アプリやLINE等を通じて子育て世帯に配信していきます。

二つ目が、②親子体験教室の開催です。実際に親子で幼児の運動遊びを体験できる機会を提供することで、その体験を通じて幼児期の運動遊びの重要性を理解してもらうとともに、運動遊びのきっかけとしてもらうことを狙いとしています。

三つ目は、③保育士への実践研修です。モデル園として10か所の保育園を選定し、保育現場に講師を派遣して保育士向けの実践研修を実施します。運動遊びをより多く日常の保育に取り入れてもらうことで、幼児の運動の機会を増やし、習慣化を促します。

四つ目は、④体力測定による効果の検証です。保育士向けの研修を行うモデル園においては、園児の体力・運動能力向上の効果が期待できることから、園児の体力測定により、その変化から事業の効果を検証します。また、幼児期においては、成長に伴う体力・運動能力向上も含まれるため、モデル園以外の保育園においても同時期に体力測定を行い、そのデータと比較することで分析の効果を高めていきます。

冒頭でも触れましたが、事業効果として、当該事業を通じて幼児の体力・運動能力を向上させるとともに、成人期のスポーツ習慣化につなげていきたいと考えています。

2枚目をご覧ください。中ほどの「事業概要・実施スキーム」中の図は、今ほど説明させていただいた各事業を落とし込んだものになります。これらの事業を効果的に実施して幼児期の運動遊びを促進していくことで、幼児の運動の習慣化、体力・運動能力の向上を図るとともに、ひいては就学後、成人後の運動習慣化につなげていきたいと考えています。

重点事業についての説明は以上になります。

(西原会長)

ありがとうございました。

今ほど二つの重点事業についてご説明いただきましたが、ご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

(田巻委員)

今のお話を伺って、実はスポ柳都の第1期の作成のときのことを思い出しまして、私、聞いていたのですけれども、そのときに、子ども部分というのを私、担当しまして、そのときに意見として、とにかく今の、どうやら小学校や中学校で行われている体育というのが、例えば持久走なんかでも、もう苦しくても死ぬまで頑張れみたいな、そういう指導が行われていたところもあったと。それで、やっぱりスポーツの楽しさを子どもの頃に植え付けておくことが、今は青少年期のということでお伺いをしましたけれども、ひいてはもっと大人になっていったときに、例えば中高年になっていって、生活習慣病です、運動しなさいと言われてたときに、スポーツというものが辛く苦しいものというふうに思っている人と、体を動かす

ことって楽しいんだということのを植え付けられている人というのは、かなりの違いがあるということをおし上げたのですよね。

そうしたら、最初の素案では、ご意見をいろいろ伺って、ご専門の先生方なんかは、ちょっと激しすぎるんじゃないかというご意見があったのです。ところが、事務局の案を次の会合で見たら、私の素人の意見がなんと復活されていたので、スポーツの楽しさということをお子どもに植え付けるといった、そのことを今、思い出して非常にそのときにありがたかったなと思ひましたし、やはりこういう形で実を結びつつあるんだなというふうにお思ひて、大変嬉しく拝聴しました。それを一言おし上げたくて、ありがとうございました。

(西原会長)

ありがとうございました。

今日は小体連、中体連の会長さん、副会長さんいらっしゃいますが、例えば小、中の、体育だけではないのですが、体育はだいが楽しいということをお意識して、本来のスポーツの活動を十分にやっているのですが、部活動も含めだと思ひのですが、どうですか。ご意見がありましたら。

(竹田委員)

今年度、小体連の副会長を務めています、江南区にあります亀田東小学校の校長の竹田と申します。よろしくお願ひします。

今ほど田巻委員から、以前のお話がありましたが、小学校のほうでは、体育はやっぱり運動の楽しさを子どもたちに味わってもらひ、体感してもらひ、知ってもらひというのを大事に指導しています。文科省も、子どもたちの二極化というところ、放っておいてもいろいろなところで運動に親しんでいる子どもと、なかなかそういうところの場に進んで参加しない、または運動嫌いというふうなお子さんとの二極化が進んでいるから、下のほうの子どもたちに対する手立て、工夫を普通の授業でもしなさいということで、文科のほうから指導が来ています。

ですので、小学校の体育の中では、例えばサッカーですと、普通のボールは使わないで、下の学年になると、そもそもボールと言っていいのか分からないのですけれども、円盤状のものだったり、丸になると新聞紙を丸めたようなものを使ったりと、そういうルールを簡素化というか、簡易、安易なものにして、苦手な子どもでもスポーツ、サッカーの楽しさを味わうことができる。今、サッカーを例にしてお話をさせていただいたのですが、いろいろな運動領域のいろいろな部分を、苦手な子どもでも楽しさが味わえるようにというのを、日々、職員は工夫してやっています。

ただ、小学校段階でいずれ中学、高校につなぐためには、ずっとそのままというわけには

いかないので、学年の発達段階に合わせて徐々にチャンピオンスポーツのやり方に近づけていくというような形で、職員のほうはいろいろとやり方を工夫して、ともかくすべての子どもたちに運動は楽しい、スポーツっていいなというのを味わってもらおうということを大事にしています。小学校でした。

(西原会長)

ありがとうございました。中学校の阿部先生、お願いします。

(阿部委員)

新潟柳都中学校に勤めています阿部修と申します。よろしく申し上げます。

まず、重点の事業につきましては、とてもいい事業だなと思って、今、拝聴していました。保護者の啓発ということで動画、それから市内の現場としての保育園の取組み、その効果測定ということで、とてもよく考えられているなと思ってお聞きしていました。

できれば、できればというか、私もほかの会でも申し上げたことがあるのですが、こういった子どもたちのスポーツやウィンタースポーツも含めてですけれども、やはり最後は親なんじゃないかというご意見も聞くのですが、やはり親といってもなかなかできないというのが、いろいろな経済的な格差があったりする中で、こういうふうに保育園の現場を使ってやっていただくというのはとてもありがたいなと思ってますし、それがまた拡充していただければ、とてもいいなと私は今、聞いていました。

中学校というのは、私の時代は死ぬほど走らされた時代ですけれども、今は小学校と同じで、ただ楽しさというのは、やはり中学校になってくると多様性が出てくるので、やはり競技に行きたいというお子さんもいるだろうし、身近に楽しみたい、調査をすれば、六、七割の、どちらでもいいかなという子が3割、競技に行きたい子が3割、ちょっとやってみたいなという子が3割というような、今はそんな現状なのかなと認識しているのですが、学校体育の授業の中でのスポーツに触れていくということと、先ほど西原先生おっしゃられましたように、部活動の関係というのは今はいろいろと全国的に取組みがありますけれども、それも含めてジュニアのスポーツをどうしていくかという、この入り口の部分から、やはり小・中というふうに、幼・小・中・高というジュニアのスポーツを、またこういった取組みを具体につなげて、行政の方もそういう意識でいただければありがたいし、我々も学校として、いわゆる地域の方と一緒にそういう環境づくりを一生懸命やっていかなければいけないなと今、お話を聞いて思っていました。あちこちって申し訳ないのですが、中学生になると、やはり多様なニーズが出てくるので、そういったことに対応できる我々、状況が今なかなか難しくなっていますけれども、入り口の部分で、こうやってやっていくのはありがたいなと思っています。

また、コロナがあったこともあって、本当に申し訳ないのですけれども、私が見ている感覚で言うと、やはり中学生の運動を見ていて、小学校からあがってくるお子さんを見てみると、どんどん運動ができなくなるといったらあれですけれども、好きではない子も増えてきているなと思いますし、ゲーム等の関係もあるのだと思うのですけれども、やはり体力低下と、それから運動、やはり幼少期に刺激というか、神経系は幼少期に発達しますから、そういうところの経験がないままきて、中学校のときに神経系のことをやっても、なかなか難しいですから、そういう時期、時期で、やはり何を育てていくかというのをトータルで考えていくことも必要かなと思って聞いていました。長くなってすみませんけれども、感想も含めてですが、ありがとうございました。

(西原会長)

ありがとうございました。

このつながりで、大矢委員、どうですか。まさに幼児の運動遊びが開始になりますが。

(大矢委員)

西幼稚園の園長の大矢でございます。よろしくお願いたします。

この会に何年前から出させていただいて、この会は児童以降、小学校以降のスポーツのことが主で、幼稚園、幼児期の運動というところが、なかなかなかったのを申し上げていたことを思い出すのですが、それが本当にこのたび実現していただいて、今日、資料を見て「おっ」と思って、今日来てよかったなと思いました。本当に感謝申し上げます。

この書いてある内容もとても素晴らしくて、今年度、予算がないのに、来年度に予算をつけていただくということは大変なことだと思ったのですが、本当に実現していただいてありがたいなと思っています。

幼児期というのは、放っておいても子どもたちは動くのですね。体を動かすのですね。それで、走ったり、飛んだり、くぐったり、遊びの中で取り入れていくというのが幼児教育、それが正しい体の使い方というのが、なかなか保育者自身も分からなくて、なんとなくそういったところが怪我につながったり、それこそ嫌になったり、そんなところを、こういったところで推進していただくというのは本当に子どもたちのため、私たち携わっている保育士もそう思っているということです。

ちょっと気になるところが一つあって、幼児教育の幼児教育施設はいっぱいあるのですね。公立、私立、そして最近はこども園というものがあって、こども園なんかは、やはりスポーツというものを売りにしているところは、民間のところのスポーツインストラクターみたいなものを使ったりといったところがあるので、実は非常に格差があります。その中の実態をいろいろ調べていただいて、よりスポーツが広がってほしいなという願いがあって、

そういったところで 10 園がモデル園というところになるのですが、その実施するところの先行の幼児教育施設みたいなのところも、ぜひご検討いただいて選んでいただくというところを願っています。本当にお礼です。ありがとうございます。

(西原会長)

大矢委員、ありがとうございました。

(速水委員)

今のご意見の関連なのですけれども、小学校や幼稚園、保育園の体育スポーツ関係の窓口もスポーツ振興課でいいのですか。ちょっと嫌らしい質問になってすみません。

(西原会長)

教育委員会もあるということですね。

(速水委員)

はい。

(事務局)

ありがとうございます。一応、行政組織規則上といいますか、学校で行う以外のスポーツの分野については、私どもが担当するというような事務の規則になっておりますので、いろいろ今はすごく境界が曖昧になっているところもあるとは思いますが、私ども皆様からご審議いただいて作成した第3次スポ柳都で、生涯スポーツの推進というものを掲げておりますので、やはり生涯ということになると、委員の皆様からご意見があったように、幼児期から高齢期までというところで、途切れなく推進していきたいと思っておりますので、速水委員のおっしゃるようなところ、ちょっと役所的に言えば、学校で行うもの以外は我々で担当させていただきたいと考えています。

(西原会長)

速水委員、よろしいでしょうか。

(速水委員)

そのとおりなのでしょうけれども、じゃあ学校は教育委員会なのでしょうが、その説明や云々なんていうのは、それも全部窓口はスポーツ振興課ということによろしいのですか。

(事務局)

基本的には、学校で行う、例えば体育の授業の内容ですとか、今、行っています部活動の地域移行については、今のところ教育委員会、学校のほうで窓口になって行っているところでは、我々が担当しているところについては、速水委員もご存じかと思いますが、スポーツ協会さんで行っていらっしゃるジュニア育成事業ですとか、それからこういった幼児期の運動遊びの推進といったようなところについては、私どもで担当させていただいているという

ところになっておりますので、学校体育や部活動の説明については、今のところは教育委員会のほうからさせていただくという形になっています。

(西原会長)

速水委員、よろしいですか。最近、今、課長がおっしゃったように、一緒にやっっていけないといけなところもあって、境界が明確にはならないところもあるのですが、ただ、学校の教育課程内のことについては教育委員会で、教育課程外における、こういったスポーツの活動についてはこちら側となっておりますので、むしろこれからそこは一緒にやっっていけないと、なかなか難しいところだと思うのですけれどもね。ありがとうございました。

(山本委員)

新潟リハビリテーション病院の山本と申します。最初の新潟・佐渡のマラソンについてなのですが、これ新潟・佐渡の魅力を二つの大会でということで、ただ、大会の規模を考えると新潟マラソンが4倍くらいですよ。ということは、新潟マラソンに来た方たちが佐渡マラソンに挑戦したいというような、そういうストーリーもあっていいのではないかとということで、つまりそうすると順番が佐渡が先ということになると、毎回ちょっと逆になっちゃうから、だから新潟に出た人が、次の年の佐渡に出ると、また評価してもらえよう、そういう仕組みもより充実するのではないかなということで意見をさせていただきました。

(事務局)

ありがとうございます。私どもも、そこについては実は検討をしていたところなのですが、今回、初回ということで、役所的なことでも恐縮なのですが、年度の関係もありまして、まず初回については佐渡トキマラソンにエントリーされた方について、新潟マラソンにも出走された方を、新潟シティマラソンのところでメダルを授与しようということになりました。

また、来年度以降については、恐らく新潟シティマラソンでW完走メダルをいただいた方というのが、例えばSNSなんかで拡散されて、それが呼び水になって、また佐渡の募集が12月くらいから始まりますので、その際にまた来年度も、もしこういった連携ができるといことになれば、そこでまたアピールといいますかPRをして、佐渡のほうにも申し込みになられる方が増えるのではないかと考えておりますので、そういった形で続けていくことで、どれくらい続けられるかというのは、まだはっきりはしていないところでも恐縮なのですが、まずはこういった形で、佐渡で走って新潟でメダルを渡すというような形でまずはさせていただきたいと考えています。

(山本委員)

もう一つ、幼児のほうなのですが、今回、対象が幼児ということで、この世代が目

的はもちろんその時期の身体機能の発達そのもの、運動習慣の獲得ということが一番大事だと思いますけれども、そうすると動画の内容が一番重要ではないかと思うのです。この時期、運動することが、例えば脳の発達だとか、健康、体の発達にどんな影響があって、これがいかにこの時期、ゴールデンエイジというような時期であるということをしっかり保護者、また保育士の皆さんに伝わるような、その内容をしっかり取り入れないと、ただ運動の動画だけだと、まったくよくある話になってしまうので、だから発信の仕方と内容をしっかり検討して、その辺は西原先生がプロフェッショナルですので、ぜひそういった動画の作成のかかわりをしっかり作ってやっていただきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。そちらについては、こちらの事業の新潟大学ですとか青陵大学、今日はいらっしゃっていないのですが青野先生からご助言いただきまして、市内の大学の幼児教育を専門にされている方の監修ですとか、ご助言をいただきながら動画の作成と、それからこちらの運動遊びの研修もさせていただく予定になっておりまして、今、山本委員からご指摘のあった点にも重々配慮をしていきたいと思っています。

(西原会長)

ありがとうございました。これはこれから作るのですよね。

(事務局)

はい。これからです。

(西原会長)

もしでしたら、山本先生と太田先生の医師の方々いらっしゃるから見ていただいたりしながらやるといいかもしれませんね。ありがとうございました。

(大矢委員)

改めて見たのですが、「園の選定については保育課と調整」とありますが、実は公立幼稚園は教育委員会の扱いになっておりまして、そこも入れていただけると非常にありがたいです。

(事務局)

ありがとうございます。

(西原会長)

ありがとうございました。ほかに、いかがでしょうか。

(高橋委員)

お疲れさまです。シティマラソンの件で、私も先ほど山本委員のご意見と同意見でして、やはり新潟と佐渡のマラソンの連携ということを考えますと、4月のフルマラソンって、な

かなかエントリーするのに勇気がいるのですよね。シティマラソンは10月にあって、さらにその次、4月にまたこのまま走り続けようかというような動機づけにもなると思いますので、年度をまたいでしまいますし、エントリーの時期まで、まだ予算が決まっていないというご都合はあるかもしれませんが、ぜひ佐渡から新潟だけではなくて、新潟から佐渡という形の流れもつなげていただければありがたいかなと思います。

それと、先週の新潟ハーフマラソンのときに能登半島地震枠ということで募集を確か拡大されたと思います。とてもいい試みだったと思っています。今回、シティマラソンでも、また能登半島地震の支援ということで、新潟市も被災地で、新潟県内でも被災もごございますし、スポーツ施設もなかなか大変な状況だと思いますが、ぜひ被災地との連携という形では、もっと強くアピールしていただけないかなと感じました。

それと、マラソンの発信というところで、誘客・観光ということであれば、40回大会にまた高橋尚子さんもゲストランナーで来てくださるということで、昨年いらっしゃることができなかったはずなので大変心強いと思うのですが、また同時に最近、マラソン関係のインフルエンサーの方が大変多くいらっしゃいます。そういった方がエントリーされて走る前から大会のアピールを繰り返しSNSで流されていて、恐らくかなり効果があるのではないかなと感じています。なので、新潟と佐渡の大会についても、どなたか、そういった発信力のある方の力をお借りするというのも一つかなと思いますし、あとはハーフマラソンも服部勇馬選手や箱根駅伝の郷土の優秀なランナーの皆さんと一緒に走ることができて、とても楽しかったですし、昨年のシティマラソンのときのユニバーサルランで豊山関が走っていらっしゃったのは、私もへなちょこランナーながら出ているのですけれども、とても感動しました。そういった郷土の活躍されている方々と触れ合う機会という意味でも、マラソン大会というのはとても有効かなとも思いますので、ぜひ引き続き取組みを、新潟・佐渡の話も、今年度に限らないで続けていただけるとありがたいかなと感じていました。所見ですが、以上です。

(西原会長)

高橋委員、ありがとうございました。いろいろ魅力的なことも言っていただきましたが、よろしく願います。

ほかに、いかがでしょうか。

(丸田委員)

シティマラソンの件で、ずっと懸念であった障がい者の参加、車椅子の参加について何回か実行委員としてもかかわらせてもらってやってきました。お陰様で車椅子の人だけではなく、いろいろな障がいのある人にも興味を持ってもらって、本当に大勢の方がマラソンに障

がいのある人も参加するようになりました。ファンランのほうも車椅子でも大丈夫かという話の中で、実際やってみて、走ってみれば、単独でも全体の真ん中くらいでゴールするような方たちもいて、全員が完走しているという形でございます。

その方から意見というかお願いがあったのですけれども、俺はやっぱりフルマラソンにチャレンジしてみたいんだよねという話が来ます。恐らく完走するかどうかは問題ではなくて、それに対してチャレンジできるかどうかということがすごく本人にとっては大事なことで、お母さんもフルマラソンを実は新潟シティマラソンでいつも走っている方で、一緒に走りたいという希望を聞きました。これはまだ今回は難しいとは思いますが、将来的にはファンランで完走できた子には、そういうものもチャレンジできる機会というのを与えていくということが大事なのだろうなと思っています。マラソンの中で、車椅子は参加できませんという、この一言というのは結構やはり重要であって、例えばファンランを完走したら、車椅子でも参加できますよという形に変えてもらうといいかなと。そういうところできると、もっといいものになるかなという気がしています。

私も昔、ホノルルマラソンというものに対応して行ったことがあって、あれは車椅子の人もいて、家族も一緒に9時間くらいかけて、たくさん参加しているのを見たときに、こういうやり方もあるんだなというのをすごく感じていたので、ぜひ将来的には、基本的には断らない、どんな形であっても断らないということが大事なのだと思います。当然、参加は自己責任ですし、サポートというのは必要ないと思うのですけれども、出たい人に対して参加できる方法というのを考えていただけるといいかなというのを感じています。私も引き続き、マラソンのほうの障がい者の関係のサポートはしていきたいと思いますが、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。フルマラソンに参加されたいというお声は私どもも、この2月くらいに、また理学療法士会とも意見交換をして、そういったお話があるのは承知しておりました。いろいろな方のご協力を得ながら、実は丸田委員をはじめ、障がい者スポーツ協会の方、それから理学療法士会のサポートをいただきながら、車椅子ランナーの出走というのをやっていますので、今後もいろいろな安全ですとか、やはり事故がないというのが一番なところで気をつけなければいけないところですので、そういったところが確保できるのかなど、またそういったサポートをしていただいている方と話し合いながら、今後、実現に向けて、どういったものができるのかというのは検討していきたいと思ってお

りますので、ご協力をお願いいたします。

(西原会長)

ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。またもし何かお気づきの点がありましたらお願いします。

それでは、4番の「事務局からの報告」に入りたいと思います。(1)「能登半島地震によるスポーツ施設への被害について」です。よろしくお願いします。

(事務局)

それでは、能登半島地震によるスポーツ施設への被害についてご説明させていただきます。スポーツ振興課の秋山と申します。

資料3をご覧ください。このたびの地震による本市のスポーツ施設への被害状況を一覧にしたものとなっています。被害につきましては、被害の比較的小さなものから大きなものまでさまざまございます。

被害につきましては、すべて全区にわたりまして市内79施設ございますが、そのうち計29施設において液状化やひび割れなどの被害がございました。その中でも、現在のところ被害により営業を休止せざるをえない施設につきましては、新潟市陸上競技場サブグラウンド、また鳥屋野運動公園球技場、あとは西海岸公園屋内プールの3施設が休止となっています。

また、現在、冬期間で冬季休業中ということなのですが、鳥屋野運動公園野球場と西区の善久河川敷公園庭球場につきましても、実は復旧の目途が立っていないという状況となっています。

今回、被災したスポーツ施設の復旧・再開につきましては、今年1月に臨時の市議会が開かれまして、補正予算を議会のほうから承認をいただきまして、現時点においては復旧の範囲や方法などを検討しながら現在、準備を進めているところです。

現時点でスポーツ施設の今ほど説明した復旧時期については未定となっておりますが、利用者の方々のご不便を早期に解消できるように努めてまいりたいと思っています。

(西原会長)

ありがとうございました。

今ほどの説明について、何かご質問ありましたらお願いします。よろしいですか。なかなか先が見えないということにはなっているわけですが。

それでは、最後になりますが、(2)「スポーツ施設の未来構想会議について」、よろしくをお願いします。

(事務局)

引き続き説明させていただきます。「新潟市スポーツ施設の未来構想会議～『スポーツ×拠点性の向上』に向けて～」についてご説明いたします。

お手元の資料4をご覧ください。会議につきましては、昨年6月から5回行われまして、明日3月28日に議論を取りまとめました提言書を構想会議から市長がいただくこととなっております。

まず、会議を立ち上げた背景につきましては、左上にあります背景、新潟市体育館、それから鳥屋野運動公園野球場といった一巡目国体で本市に整備されました施設が建築後、約60年を経過しておりまして老朽化が進んでいるという状況がありました。

それから、市民、スポーツ団体などからは新潟県には県立アリーナがないというような意見を踏まえまして、大規模アリーナなどの設置を求める声が挙がっているという背景もございます。

そして、スポーツ施設の今後の改修や設置を考えるあたっては、スポーツイベントの開催はもちろん、その他の施設の活用方法といったものも考えて、また、まちの賑わいづくりといった視点も必要といったところでございます。

次に、目的となりますが、こういった背景のもと有識者の方々にお集まりいただきまして、県とそして政令市新潟市にふさわしいスポーツ施設のあり方についてご提案をいただき、将来的には県など関係機関と連携しながら今後の施策に活かすとともに、民間活力を呼び込めるような魅力あるスポーツ施設についてご議論いただくというものとなっています。

次に、委員構成ですが、委員としてご参加いただいた有識者の皆様は、委員名簿に記載のとおりとなっております。会議の会長には当審議会の西原会長にご就任いただきました。

次に、想定するエリアです。資料右上にございます県と政令市にふさわしいスポーツ施設を想定するエリアと、未来の設定についてです。会議の副題が「スポーツ施設による拠点性の向上に向けて」とあることから、概ね今後20年間を見据えまして、すでに文化スポーツの拠点性を有する白山エリア、そして活力ある拠点を目指す都心軸である、にいがた2kmエリア、そして駅南を抜けて都心周辺部にあたる鳥屋野潟南部エリアを念頭に置きまして議論することとなりました。

次に、定義でございますが、県都・政令市にふさわしいスポーツ施設について、三つ定義を行いました。まず一つ目が、国際・全国大会を開催できる高い機能を有すること。次に、イベントでも活用され、まちに賑わいが生まれる拠点化・活性化に寄与するもの。そして最後に、防災拠点としての機能を有するものという定義を行いました。

この定義に基づきまして、議論を深めた結果、委員の皆様からの主な意見でございますが、

白山エリアをはじめとする「にいがた 2 km」周辺のまちなかエリアでは、「スポーツによるまちづくりと地域活性化」を図ることが望ましい。

二つ目の意見としまして、鳥屋野潟北部及び南部エリアでは、「スポーツの活性化・余暇の充実」を実現する方向性が望ましい。三つ目ですが、喫緊の課題である老朽化への対応として、地震の被災もございましたが、鳥屋野運動公園野球場は、鳥屋野潟南部エリアに移転して新築する方向性が望ましいといったものでした。

冒頭にもお伝えしましたが、明日 3 月 28 日、未来構想会議でご提言のほうをいただくという予定となっています。スポーツ施設の未来構想会議についてのご説明は以上となります。

(西原会長)

ありがとうございました。

明日、この会議の内容を市長に手渡すことになっています。

それから、私も参加させてもらって、はじめはエリアをどう想定するかというところから議論を始めていって、その中で、だいたい新潟市の中心部を中心としながら、それから今までのあり方は、よくスポーツ施設というと、空いているところがあるからそこにスポーツ施設をみたいな考え方があるので、そうではなくて、複合的にどのように考えていくのかといったところがあって、そんなことを考えながら書いたものになっています。

では、ご意見・ご質問ありましたらお願いいたします。

(速水委員)

私が言っているいかどうか分からないのですが、市の構想、計画は素晴らしいことだと思うのですが、もう一つ、県と新潟市とのバランスといいますか、調和といいますか、その辺をよく県と調整をしていただいて、新潟市はこんなようなものを作るのだから、県はいやと言われかねないような計画をやっていただければと思います。

(西原会長)

ありがとうございます。特にビッグスワンやエコスタジアムという県が持っているものと、市はどう協調していくのかということですね。課長、何かありますか。

(事務局)

ありがとうございました。速水委員のおっしゃるとおりでございます。西原会長から座長を務めていただきました。その中でも、やはり県の施設ですとか、もうあるもの、それからあとはほかの委員からは大学ですとか教育機関が持っている施設なんかも有効活用すべきだというようなご意見もありまして、そういったものも含めながら役割分担というところとちょっと行きすぎかもしれないのですが、県の施設があるというようなことも含めまして、このエリアの中で、どういった施設が必要なのかというところを委員の皆様からご議論いただき

まして、ご提言の中に盛り込んでいただいたというような認識であります。

(文化スポーツ部長)

一つだけ付け加えさせていただきますが、速水委員、ありがとうございます。県とは県のある施設と、あとは新潟の施設というのを役割分担と今、課長が申しあげましたけれども、そういうところを考えながら、新潟らしさというところでオンリーワンというような形で打ち出していけるように努めてまいりたいと考えています。

(西原会長)

ありがとうございました。速水委員、よろしいですか。

ほかに、いかがでしょうか。

(山本委員)

私は野球連盟のほうで現場の声として、例えば野球場にしても、作る際の例えば球場の向きだとか、建物の内部の構造だとか、やはり全国大会を目指すといった誘致ということであれば、現場の声を聞いた建物にさせていただきたいということ、多分そういう声は届いていると思いますけれども、あとはやはり建物だけではなくて、交通のアクセスも非常に重要だと思いますので、ぜひそういった視点でも、きっとそれは当然のことだと思いますけれども、意見として述べさせていただきました。

(西原会長)

ありがとうございました。今でも例えばビッグスワンでサッカーのあとは交通渋滞で車が渋滞してしまうのですけれども、そういうことも考えながら、いかに交通インフラも考えるということで、会議の中ではそういうことも検討していたのですけれども、やっぱりそうですよね、それが無いといけませんよね。

(齋藤委員)

今の山本委員の意見に賛同いたします。追加みたいな形で恐縮ですが、皆さんご存じのとおり、北海道の日本ハムが新しいスタジアムを作りました。昨年暮、私は仕事で島根のほうに行っていました、島根県の野球関係の人だけではなくて、旅行ツアーがあって、こんな言い方は失礼ですけれども、わざわざ島根の松江から野球を見に行ったのではなくて、まだ開幕していない前ですから、あの施設を見に行ったと。いやあすごい施設ができたなという話を聞いて、本当にびっくりしました。最後のテーマかもしれませんが、私個人的に未来構想、予算も県との関連もあると思いますが「新潟市のあそこへ行ってみようよ」という人が首都圏からも来てもらえるような、これがすべてに観光も含めて活性化ということにつながるのではないかなと思います。

最後にもう一つは、今、全国で野球場を作るときに反対意見が非常に多いと聞いています。

つまり、こんなスペースに大きな施設を作って、野球しかできないのかと。今、野球離れとは言いませんけれども、ですから、こういう今の全国の流れがあると思いますので、なかなか多目的なアリーナを作るとするのは非常に予算もかかるとは思いますけれども、これが委員の皆さん含めて知恵の出どころというか、本当に個人的には、この1枚の紙を見て楽しみにしていますので、どうぞよろしくをお願いします。

(西原会長)

ありがとうございました。野球場だけ単体で考えると何だという話になるのですけれども、やはりすべてアリーナとか野球場とかスタジアムとか、いろいろなものを新潟市にどう配置するかということを考えていくと、やはりそういうものは必要なのではないかなと思いますし、また、この会議の中でも言われたように、今、齋藤委員がおっしゃったように、お金がかかることなので、これ例えば行政、民間だけではなくて、やはり市民全体のムーブメントが必要ではないかといったところですね。市民全体で盛り上げて、やっぱり必要だねということが必要なので、ぜひ皆さんからもいろいろなところで、こういう必要性をお話しいただければなと思っています。

(太田委員)

太田でございます。今ほど皆さん各委員の先生方からおっしゃられたことに、さらに加えていただくような意見になるか、あとは希望になるかというところなのではございますけれども、このスポーツ施設の単体で、その場でいい施設ができたとしても、山本委員おっしゃったように、県外から来られる方にもアクセスが難しいと困ります。新潟駅も新しくなって、そのスポットとしては非常に豪華なのではございますけれども、それと各施設のアクセスというところが私もエアロビックの地区大会をやるにしても、この体育館等のアクセスがよくないというところから、なかなかお呼びできない、中規模であったとしてもイベントを開催できないというようなところがまだ現状としてありますので、この会議でも太田が何度も交通システムについての再考をお願いしますというふうに申し上げていると思うのですが、このスポーツ施設に絡めて、ここの会議からもアクセスについても発信していただきたいなということが一つありますし、また、こういう施設を作るときに、新潟の天候というか、四季を通じて利用できる、冬場になると屋根がないので天候を考えたらイベントができなかつたりしますし、ちょっと雨が降れば、楽しもうというところに、もう一つ、雨、風にさらされるということで健康被害にもつながるかと思えます。スポーツ施設、音楽イベントですとか、いろいろなイベントに先ほど多目的とおっしゃったのですけれども、そのようにすれば、スポーツ実践以外にも利用できることが、コスパがよくなるかといいますか、空いておく時間を少なくできるようにもなりますし、また、音楽イベント等がありますと、若者が他の都道府県から来て

くださったりして、さらにまた新潟に足を運んでくださるということもあると思いますので、そのようなことも含めて構想の会議のご意見としてまとめていただければいいと思います。

最後ながら、1月1日の能登半島地震では、西区の住人ですので、半壊の罹災証明もいただきましたけれども、それにあたりまして、新潟市の行政の方々、西区だったり区役所だったり総合スポーツセンターだったり、いろいろご尽力いただいて、この間もネクストのところにも書類の手続きに行きましたけれども、非常に円滑に迅速に対応してくださって、それぞれの方々お疲れだと思いますけれども、いい行政の対応をしてくださっているなど市民としても思いますし、また、被害の修復というのも、もう業者さんが手一杯で、私も家だけでももう三十何軒待ちなので、今年はもう無理ですと、生活に一番支障のあるところから始めていきますので、お宅の場合はもうちょっと待ってくださいという、生活自身はできるのですけれども、これから長く住み続けるにはちょっとというようなレベルで、多分、今年には終わらないので、来年以降になると思いますが、それも含め、長い目で見て復興といいですか、スポーツ施設もプールですとか、それを希望されているお客様たちもいらっしゃるの、スポーツ親交者、愛好者の方もいらっしゃいますので、長い目でぜひ取組みを続けていただければと思います。最後にすみませんでした、長くなりました。よろしくお願いします。

(西原会長)

ありがとうございました。事務局から何かありますか。特に交通インフラ等も併せてということで、会議の中でも検討してはいるのですが、よろしいですか。

ほかに、いかがでしょうか。なければ、全体をとおして何か皆さんからご意見・ご質問ありましたらお願いいたします。新潟市全体のスポーツ政策について、よろしいですか。

(山本委員)

実は先週のハーフマラソンに私、たまたま救護で、これからちょっと陸上連盟とのいろいろな反省というか、3人ほど死にそうになった方が、心肺停止とか低体温とか、一番問題なのは低体温なのですね。我々どうしても熱中症に目を向けがちですけれども、新潟の冬をなめちゃいけないのですね、風と雨と、ハーフですけれども、もちろんトップランナーはあっという間に1時間で駆け抜けちゃいますけれども、普通の市民の人は、あの寒さの中で20キロは、もうほとんど体が動かなくなるし、給水をやっている中学生も低体温で倒れたり、今後は救護のあり方を、やはり新潟ならではの問題があったなということと、やはり低体温に対する啓発が不足だったなという、体を温めようがない、場所もないし、方法もないという、だからこれはすべてに共通することだと思いますので、一応あるということでお話しさせていただきました。

(西原会長)

今後そういう対策を十分とっていただきたいということですね。ありがとうございました。
ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、今年度、第2回になりますが、令和5年度のスポーツ推進審議会、最後になりますが、ありがとうございました。では、事務局にお返しします。

(司 会)

西原会長、スムーズな進行、誠にありがとうございました。委員の皆様におかれましても、評価やご意見をいただき、大変ありがとうございました。本日、頂戴しました評価、ご意見は、今後の事業を進めるうえでの貴重なご意見として、今後のスポーツ振興に取り組んでまいりたいと思います。

では、次第5のその他として少しお時間をいただきまして、本審議会の委員の交替についてお話をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、3月31日で任期が満了となりますが、新年度からの審議会の委員構成につきましては、現在、事務局にて新たな委員の委嘱準備を進めさせていただいております。今回でご退任される委員の皆様には、これまでのご尽力に心から感謝を申し上げます。

今回、退任される委員は、齋藤委員、高橋委員、速水委員、大矢委員、田巻委員、それから本日ご欠席されていますが青野委員、田村委員、野田委員、山内委員の9名となります。大変恐縮ですが、ご退任される方で、本日も出席の委員にごあいさつを頂戴したいと思います。最初に、齋藤委員よりお願いいたします。

(齋藤委員)

—ご挨拶—

(司 会)

ありがとうございました。続いて、高橋委員、お願いいたします。

(高橋委員)

—ご挨拶—

(司 会)

ありがとうございました。続いて、速水委員、お願いいたします。

(速水委員)

—ご挨拶—

(司 会)

ありがとうございました。続いて、大矢委員、お願いいたします。

(大矢委員)

—ご挨拶—

(司 会)

ありがとうございました。続いて、田巻委員、お願いいたします。

(田巻委員)

—ご挨拶—

(司 会)

ありがとうございました。

改めまして、委員の皆様、本当に長い間ありがとうございました。今後とも本市のスポーツの推進、振興にご協力賜りますようお願いいたします。

また、来年度からの新委員につきましては、公募等を含めまして現在調整中ですが、6名の方に内諾をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

まず、学識経験者として新潟大学教育学部准教授、檜皮貴子様です。続きまして、新潟日報社論説編集委員の相田晃様です。続きまして、スポーツ団体関係者として新潟市テコンドー協会、副理事長の早見和夫様です。続きまして、新潟市スポーツ推進委員連盟、副会長の高橋由紀子様です。続きまして、新潟市スポーツ協会、副会長の坂上昭様です。続きまして、社会人アスリートとして株式会社本間組にてフェンシングでご活躍されている古俣潮里様です。

最後に、事務局のことで恐れ入りますが、スポーツ振興課長の寺尾より皆様に一言ごあいさつ申し上げます。

(スポーツ振興課長)

大変恐縮でございます。皆様、いろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。

実は私、今回、人事異動の内示がございまして、あと3日でございますが、4月1日からスポーツ振興課長の任を離れまして、秘書課というところに異動になりました。ちょっと私も正直なところ想定外で、2年間という短い間でしたが、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。お陰様で第3期のスポ柳都も非常にいいものができたのではないかと考えています。

また、後任が今、政策企画部の政策監の大坂という者がスポーツ振興課長になる予定になっておりますので、引き続き、来年度以降も皆様、よろしくようお願いいたします。ご退任いただく委員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。簡単ではございますが、お礼のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

(司 会)

それでは、最後に事務連絡になります。来年度、新たなメンバーでの第1回目の審議会は7月19日金曜日、14時からの予定とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、会場等については改めてご連絡いたします。

以上をもちまして、令和5年度第2回新潟市スポーツ推進審議会を終了いたします。本日は、誠にありがとうございました。